

質疑応答における質疑と回答

※全 6 会場の質疑応答を内容ごとに整理・分類して記載しています。

※内容が重複している項目については、まとめて記載しています。

1 事業費

1-1 建築費用

①建設時期が遅れることによる建設費の高騰はないのか(駄知)

回答：建設費の高騰はあるかもしれないが設計の見直しを行い、現時点で、総事業費を約 33 億 9 千万円まで調整した。今後も事業費の削減に努めるとともに、財源を確保し、財政への影響を抑えていきたい。

1-2 維持管理費について

①旧歴史館の維持費はどれくらいか(濃南)

回答：年間約 800 万円（令和 5 年度実績）。旧歴史館では冷暖房費が展示室と事務室のみの一部、清掃委託は行っていなかった。新博物館では、全体での管理委託が必要。

②年間の維持費はどれくらいか(土岐津、妻木下石)

回答：水道・光熱、建物維持管理費（土地借地料含む）については年間 3 千 645 万円。この試算は同程度の規模の平成 31 年開館の博物館を参考にしている。土地の借地料は年間 245 万円ほど。しかし、その半分は税込として戻ってくるため、実質的には試算額より少なくなる。

③学芸員や常駐職員の人数は(駄知、肥田)

回答：現在、運営体制を検討している段階である。旧歴史館の運営は、文化振興事業団だけで行っていたが、新博物館では、文化振興課が博物館で勤務する予定。仮に現在の職員が移動した場合、市職員 6 名、文化事業団学芸員 4 名、会計年度職員 3 名として合計 13 名。

④人件費はどれくらいかかるのか(泉、肥田)

回答：職員 6 名を含めると、令和 7 年の予算ベースで年間約 8 千 700 万円と試算している。

⑤経費削減の取り組みはあるのか(濃南)

回答：建物が建っている間ほとんど修繕が不要な勾配屋根を設置するなどして維持管理費の削減に努めたい。

1-3 財源、財政について

①市の収入を増やす方法を模索しているか(泉)

回答：ふるさと納税をもう少し増やしていきたいと考えている。市外から応援してくれる人を増やしたい。コスト感覚をもって取り組みたい。

②ふるさと納税制度が終わった場合の財源は(駄知、肥田)

回答：ふるさと納税はふるさとを応援してもらう形で、いろいろな取り組みがあると考えている。制度が終われば一般財源を用いることになる。

**③市民の負担にならないようにしてほしい。維持費削減の努力をしてほしい
(肥田)**

回答：これからの時代は、今までのような税金のみを使って運営していくという発想を脱却しながら、ネーミングライツのような企業から支援していただけるような働きかけも含め、入館料など収入に関する検討を行い、出来る限り支出の削減に努めていく。

また、博物館に限らず、市全体としても多くの施設を所有しているため、他の施設でもネーミングライツ導入の検討や施設の統廃合など収益の確保、支出を削減する努力を行っていききたい。

1-4 借地、借地料について

①建設予定地は市の土地か(泉、肥田)

回答：建物が建つ部分は借地である。

②建設予定地は借地とのことだが、買い取りはできなかったのか(土岐津、妻木下石、泉、肥田)

回答：神社の所有地ということで何度かお譲りいただけないかとお願いに思ったが、特殊な性格もあり、お譲りはいただけなかった。ただし、借地料は固定資産税（都市計画税含む）から算定するが、先方の理解と協力が得られ、現在より安価で借りられることになった。

③借地料を払うより、ため池を埋め立てて建てられないか(駄知)

回答：建設の候補地となったが、新博物館の基本計画検討委員会で議論した結果、現在の歴史館の場所が高台であることと、国道 19 号や駅から目立つことに加え、池は地盤が軟弱のため、整備するのに経費がかかることから、現在の場所に建て替えることになった。

④全部借地ならば別地にすべきではないか(肥田)

回答：引き続きお譲りいただけるように働きかけていきたい。

1-5 ご意見

**①構想は有意義だが、維持費、人件費といった予算をかける価値があるのか不安
(駄知)**

回答：公共施設を減らす動きがあるが、減らした取り組みに対しては、借金に対し国から支援するという制度がある。令和 8 年までの事業に支援が受けられる。また、事業費はかかっているが、財源をきっちり確保することで皆さんの不安をなくしていく。また、歴史好きな人はワクワクするというご意見をいただいたが、市外の方は焼き物のすごさを感じているが、地元の方は価値を低く見ている傾向がある。新しい博物館によって美濃焼の価値を感じてもらえるよう、また、そういう子どもたちを育てていきたいと考えている。美濃焼は確かに地味でワクワクしないというご意見をいただいている。取り組みの中身で充実させるべきだと考えている。取り組みに対して市民の皆さんの意見を取り入れながら行っていききたい。

2 管理運営

2-1 来館者数の見込みについて

①年間の来館者数の予測は(妻木下石、泉、駄知、肥田)

回答：開館初年度は 4 万人程度を見込んでいたが、段階的には少なくなっていくと予測している。5 年目以降は 2 万人程度と試算している。

②美濃陶磁歴史館の入館者数は(妻木下石、泉)

回答：年間約 6 千人

③来館者数の予測は現実的か(妻木下石、駄知)

回答：伝統産業会館の入館者数は、おまつり等のイベントを含めて令和 5 年度は 2 万人、コロナ前の令和元年度は 4 万人であった。伝統産業会館の伝統工芸品と美濃桃山陶の文化資源は親和性が高い。伝統産業会館との連携により、この数字を実現させるため、企画展などを行っていききたい。

④セラミックパーク MINO など他館の来館者数を把握しているか(妻木下石)

回答：現代陶芸美術館については、令和元年度 2 万 5 千人弱と把握している。

⑤学芸員は来館者目標をどう考えているか(妻木下石)

回答：展示、「ときはくひろば」で開催する講座、講演会、屋外展示、ボランティア活動などにより来館者を増やすことが重要と考えている。目標を設定した数値に対してそれに近づけるよう努力していききたい。

ただし、博物館というものは説明したように、調査・研究、資料収集そして展示・公開、教育普及というものがある。そういった社会教育施設の中で、人数だけを追い求めてしまうのもなかなか厳しいところもある。

2-2 入館料について

①入館料はとるのか(土岐津、肥田)

回答：企画展・特別展は有料とし、それ以外の展示、市民の活動の場として利用できる交流スペースなどは無料にすることを検討している。

②入館料はいくらか(泉、肥田)

回答：現在検討中

③文化事業で商売するのはどうなのか(駄知)

回答：文化事業は確かに利益を生むものではない。いろいろな考え方があるが、文化振興はお金がかかるので民間はなかなかやらないから市が行うという現状もある。

3 計画（基本構想、基本計画）

3-1 基本構想及び基本計画

①基本構想や基本計画は陶磁器業界について知らない人ばかりで作ったのではないか(泉、肥田)

回答：実際に作陶されている方を含め、各分野の方々の意見を聞きながら進めてきた。

②夢物語でない構想を考えてほしい(駄知)

回答：昨日のアンケートを確認したが、さまざまな意見があった。一人一人の意見を取り入れることはできないが、市民の意見を反映する方法を考えていかなければならない。こういった事業を行う時には、代表の方を

集め、審議会を開催し決定していく。大勢の方の代表であるということ。一方、議会は市民の代表であることから、説明を行い、意見をいただきながら進めていく。市民の意見を丁寧に聞く方法については、今後考えなくてはならない。現在はパブリックコメントという手法があるが、それでも不足している場合があるかもしれない。議員に相談しながら進めていきたい。

**③博物館という構想上、自由な意見を取り入れにくい施設になるのではないか。
新博物館の構想について、市民が週末に集う場としてのイメージが乏しいと感じる。カフェやレストラン、公園、体験型の文化イベントなどを取り入れる構想への再考してもらえないか(駄知)**

回答：建物の変更はできないが、博物館の周りには公園や広場があるので、例えば、キッチンカーを呼ぶなどそういったもので代替できないかと考えている。

④本計画の主体は市なのか(土岐津)

回答：基本計画検討委員会の意見を踏まえて、市の事業として進めている。
基本計画検討委員会には専門家や学校関係者、観光分野、市民の代表の方に入ってもらい、多様な意見をいただいている。

⑤基本計画検討委員会に含まれない人の意見も取り入れて面白いものにしてほしい(土岐津)

回答：設計を進める中で計 7 回のワークショップを開催し、いろいろな意見をいただいた。産業界の意見も伺いながらソフト事業を検討したい。

3-2 人口減少

①関係人口創出のために土岐市を何度も訪れたくなる場所を作ろうとしていると考えてよいか(妻木下石)

回答：土岐市を訪れた方から「見に行くところがない」との声があり、それに応えるためには、さまざまな整備が必要だと考え、目的の一つとして関係人口の創出を掲げた。一方で、土岐市で育つ子どもたちのふるさと教育も重要であり、博物館事業には両面の目的があると理解している。

②人口減少の中で、市民が本当に博物館を必要としていると思うか。博物館の維持管理費もかかってくる。人口を増加させるため、宅地造成などして転入者を増やす必要があるのでは(駄知)

回答：市の持っている土地は大半が山林で造成は難しい。道路などを整備して利便性を高め優良な宅地とする方法がある。駄知町においては陶元浅野線ができ、国道 21 号に直結する。市街地に通ずる道路となるため、今後、駄知町においても宅地開発などの業者ともかかわっていきたい。

③人口減少対策につながるような博物館にできないか。みんなが喜んでもらえるような博物館にしてほしい(駄知)

回答：直接的に人口増加となることは難しいが、市民の皆さんの愛着を育むことで、転出を抑制し、人口減少の歯止めにつなげたいと考えている。

④陶磁器産業はなり手不足で衰退するのではないか(肥田)

回答：若者の定着。企業誘致など働く場所確保等様々検討していく。

3-3 議会

①博物館のことで3人の市議が会派を脱会したとのことだが(濃南)

回答：議員の皆さんから事業について懸念材料を示され、議論をしているところ。議員の皆さんの意見を踏まえ、令和6年度の補正予算を含めた設計予算も含め、繰り越して設計の見直しを行う。予算を認めてもらうのも議会。検討の成果を含め予算が認められるよう、丁寧に説明を行っていききたい。

②施設の建設は、議員から報告会を開くという事で了承されたのか(駄知)

回答：3月議会で設計見直しの繰り越し予算を計上した際、今回のような報告会を開催するという附帯決議により予算を認めていただいた。

③議会の承認を受けたのはいつか(泉)

回答：それぞれの段階で予算を計上し、議決を受け執行してきた。

3-4 ご意見

①重要文化財を展示するためだけに40億円近く費やすのは疑問。前歴史館と展示内容が大差なく、人が来ないのではないか。大金をかける意味があるのか(土岐津)

回答：文化施設はその運営で黒字化することは非常に困難である。文化施設の意義として交流人口を増やし、経済的な波及効果を期待する一面もある。ご理解いただきたい。

②この報告会に若者(次世代を担う世代、子育て中の世代)が来ていない状況をどう考えているか。若者世代の声が本当に取り入れられているのか(妻木下石、駄知)

回答：実際に自治会、PTA 経由でお声がけをさせていただいた。来ていただくと本当はありがたいが、現状は若者の参加が少ない形になっている。若者の意見をどう取り入れるかを考えていきたい。

③30年かけて返していく世代が今ここに来ていない。その世代の声というのが本当に取り入れられているのかということに疑問を感じている(妻木下石)

回答：子どもたちを預かる教育関係者など幅広く意見を伺うが、子ども達から直接意見を聴くという機会はなかなかできていない。そういった決める方はしていないので、反省の一つとして子ども達の考え方を吸収するような仕組みを考えていかなければならないと考えている。加えて、そういったことを思いやる、おしはかるといったことも大人の役割としてあるとも思っている。なかなか限界があって難しい部分はあるが、子どもたちのことを思いやる大人たちの意見を伺うということも一つの手であると思っている。

④旧建物を壊した理由と耐震補強の可能性、文化的価値について(妻木下石)

回答：他館の重文、国宝級のを借りてくるということに関しては、旧の施設ではできなかった。陶器だけではなく、地域の歴史、古墳も含めしっかり調査・研究をして皆さまに伝えたい。

⑤もっと地元の人と意見交換をしてほしい(泉)

回答：今回の説明会を通して、市民の皆さまの意見をどのように積み上げていくかという課題があることを実感した。新博物館については、今回時間

の都合などで意見を言えなかった方もアンケートで意見を記してほしい。

⑥事業が1年延びた状況で、市長には不退転の決意で臨んでほしい(泉)

回答：設計変更の予算の議決をいただき、設計を見直している段階。令和2年から事業の検討を進めてきて、基本構想の段階ではパブリックコメントで皆さんからの意見をお聞きしたことを踏まえ、この事業を進めていくという決意は変わっていない。

⑦これまでの地元住民への説明が足りていないのではないかと(泉)

回答：令和2年に有識者懇談会を実施し、その後、基本構想、基本計画を経て、基本設計、実施設計という段階にある。そのような経緯を各メディアを通して周知を行ってきた。地元を対象とした説明会は、昨年7月28日に建替え工事説明会をして、事業の概要、解体工事について説明させていただいた。

⑧「～ミュージアム」という名称にしてはどうか(泉)

回答：名称については今後検討していく。

⑨駅前に建設してほしい(泉)

回答：立地については、史跡が集まる文化の中心地であり周遊ができる位置でもあるため、良い場所であると考えている。委員会でもそのようなご意見をいただいている。

⑩博物館はアクセスが悪い。商業施設の近くに建てるべきではないか。予定地には反対である(肥田)

回答：予定地は文化性が高い地域である。近隣史跡等も見てもらおうコンセプトがある。

⑪今後の市民の意見次第では、中止も考えられるのか(泉)

回答：現在は実施設計という、建物を建てる寸前の設計段階であるということをご理解いただきたい。

4 建築計画

4-1 計画（外観及び機能）

①外観でワクワクする工夫をする。陶器好きの人以外でも、県外や海外から来たいと思う場所にしてほしい。何か1つ、モザイクタイルミュージアムのようなランドマークや、ワクワクする特徴あるものを、建物でも展示でもいいので作ってほしい(泉)

回答：建物のデザインについては、落ち着いたシックな形になっている。これは、文化財を保存・活用するという性質上、文化庁、国との協議を進めながらデザインを考えたという経緯がある。奇抜なものにはならないが、建物自体は非常にシックな形で、ランドマークになるものだとしている。

②館内で飲食ができないと聞いたが(泉)

回答：館内でのレストラン機能などはないが、館のそばには自販機を設置して飲み物は提供したい。文化庁と協議をしたが、国宝や重要文化財が展示できるスケールの施設のため、館内に飲食の設備を整えることができない。

③新博物館にはイベントを行えるスペースがあるか(泉)

回答：屋外スペースでイベントやワークショップの開催を考えている。加えて、織部の里公園や、新博物館の南側にあった池を埋め立てたスペースなどを活用しながら、イベントなどを行っていきたいと考えている。

4-2 計画（外構）

①駐車場が著しく少ないがどのように考えているか(妻木下石、泉)

回答：博物館の北側に 20 台程度。道路を挟んだ西側にも駐車場があり、45 台程度駐車できる。これだけの駐車スペースがあれば十分ではないかと考えている。

②駐車場に大型バスは停まれるか(泉)

回答：2 台駐車可能である。

③市に要望は出しているが、旧文化会館跡地の敷地内の排水路が、雨が降った際によくオーバーフローする(泉)

回答：要望をいただいている。10 月頃に担当課から回答させていただく。

4-3 展示

①学芸員の特徴を市民に知らせてほしい。広報等で発信をしてほしい(濃南)

回答：学芸員 4 人はいろいろなタイプの方が集まっている。職員にも学芸員資格を持っているものがある。学芸員が表に出るような PR をしていきたいと思う。

②市民が繰り返し足を運ぶことが持続可能につながると思う。そういった考えや計画はあるのか(濃南)

回答：博物館の基盤となる展示は、いろいろな企画の検討や研究を進めながら、年に何回か展覧会を行う予定である。また、市民の方に使っていただく場所「ときはく広場」を用意し、市民の方に企画や提案をしていただきながら、いろいろな活動をしていただく。講座、セミナーを何回か開催する予定。来ていただく度に違った展示・講座・セミナーなどが体験できる、常に新しいものを発信していきたいと考えている。見飽きたということがないようにしていきたい。

③同じものばかり展示されて飽きないか。変化をつけた方がよいのでは(濃南)

回答：以前、重要文化財を一堂に並べた展示を行ったが、時期、場所などの傾向が解説とともに表示してあった。ご意見のように、飽きない展示、テーマに寄った展示が必要。今後検討していきたい。

④滞在時間はどれくらいと考えているか。ターゲットは誰か(濃南)

回答：一概には言えないが、展示物の解説などが 1 つずつある。それぞれを鑑賞していただくことができる。早い人では 30 分、じっくり観賞されると 2 時間は必要となる場合もある。歴史展示室には、引き出しを予定している。焼き物の下に大人用、子ども用などいろいろな引き出しを作り、引き出して興味を深めてもらう仕掛け。また、体験展示も予定している。パレオパラドキシアタバタイの展示物を見ると同時に触れていただくこともできる。

⑤2400 点の重要文化財以外に魅力はあるのか(土岐津)

回答：元屋敷出土品以外にも魅力ある収蔵品はある。それらを活用したい。

⑥前歴史館と展示内容が大差ない。これでは人が来ない。大金をかける意味があるだろうか。展示内容をもっと魅力のあるものにしてほしい(土岐津)

回答：「公開承認施設」の基準に適合した施設づくりを行い、他所の重要文化財などの公開など、多様なテーマでの企画・特別展示が開催できるといったバージョンアップを図ります。加えて、どうしたら来ていただけるか、力を合わせて考えていきたい。

⑦国の重文「曜変天目茶碗」を借りて展示してほしい(土岐津)

回答：ハードルは高いが検討してみたい。

⑧陶磁器ばかりの展示で他市から人が来るのか。再来訪してくれるのか。常設展示にもっと歴史的なものや市の良さを反映させてほしい(土岐津)

回答：土岐市内の各地域の歴史を伝えられる展示を企画したい。

⑨新博物館の内容で、産業革命以降の産業として美濃焼が発展してきた歴史に関する部分が欠けていると感じる(泉)

回答：歴史展示室で、幕末から明治にかけての時代も幅広く展示し、特に分業化や生産の工程など、今につながる美濃焼の産業としての部分を扱っていきたいと考えている。

⑩後世に美濃焼の文化を伝えることは大切だと思うが、今まで美濃焼を支えてきたメーカーや陶器商について伝えることも大事だと思う(泉)

回答：美濃焼振興には、産業振興と文化振興の側面がある。産業振興は、一生懸命頑張って振興いただいている民間の方、業界の方に対してどのような支援ができるかという視点でやっている。文化振興については、民間の方に携わっていただくのは非常に難しいと感じており、もちろん業界の皆さまに助けていただくのも必要だと思っているが、市が文化振興を行うことで、産業振興にもつなげていきたいという思いで取り組んでいる。ふるさと納税の取り組みを通じて、土岐市の返礼品はほとんどが美濃焼であり、美濃焼が全国的に評価されているという実感がある。今こそ文化振興を含めた取り組みをやっていくべきだという思いで事業に取り組んでいることをご理解いただきたい。

⑪子どもたちが実物を触れるような展示は予定しているか(泉)

回答：体験展示のコーナーで、陶片や須恵器などを触ったり、パズルやカルタを体験したりしながら、子どもたちが歴史や美濃焼を学べる企画を検討している。

⑫何を集めてどう展示するかをしっかりと考えるべき(泉)

回答：美濃焼と土岐市の歴史文化を提示するというテーマを掲げている。今までの美濃焼の歴史、美濃桃山陶を中心に収集することに加え、土岐市の各地域の歴史文化にスポットを当てた資料を収集し、展示していきたいと考えている。

⑬話を聞いている限りワクワクしない。陶器好きの人以外でも、県外や海外から来たいと思う場所にしてほしい(駄知)

回答：陶器だけの展示はどうかというご意見をいただいた。陶器の企画展示はもちろん、みなさんからリクエストがあれば、できるだけ取り入れていきたい。みんなで作っていく博物館にしたいと思っている。

⑭重要文化財の展示誘致にかかる費用はいくらか(駄知)

回答：重要文化財の借用は公立施設の場合、借用費用は発生しない。私立は1点3万-5万円くらい。ただし、運搬費は発生する。例えば東京から10点借りるとすると約100万円。また、作品の評価額に対し0.01%の保険料がかかる。

⑮展示1回あたりの費用はどれくらいか(肥田)

回答：近年最も費用を要した展示で、最大で430万円程度（令和3年）であった。

⑯(⑮の回答を受けて)企画展示で430万円以上かかることはないのか(肥田)

回答：特別展示を行った場合上がる可能性はあるが、2～3倍になるという事はない。

4-4 ソフト事業（企画、イベント）

①学芸員による出前授業などを開催できないか(濃南)

回答：皆さんに意図が伝わるようなものにしたい。建物を作って終わりではない。運営する中で、地域の子どもたちに地域に出向いて講座など行っていきたい。

②箱館焼き（学芸員と学ぶ講座：2025年7月6日開催）について説明してほしい(駄知)

回答：箱館焼きは幕末に美濃の陶工たちが行って窯を開いて現地で制作したもの。焼き物の絵には蝦夷の模様が描かれており、面白い作品となっている。新博物館の歴史展示につながる講座を現在行っている。

5 周辺整備

5-1 周辺整備（織部の里公園、隠居山、古墳など）

①館外施設、周辺整備事業の詳細はどうなっているのか(妻木下石)

回答：周辺整備の計画なども行っているが、具体的にどこに何を作り、どういうお金を割り振るかというところまでは進んでいない。これから何年かけて詰めていきながら、徐々に充実させていくということも必要だと思っている。

②博物館周辺の地区は土岐市のメッカになると思うが、グランドデザインについてどう考えているか教えてほしい(泉)

回答：計画を進める最初の段階で、地域全体を網羅した計画を作りたいと思っていたが、まずは博物館の中身をしっかり詰めようという意見をいただいた。決して周辺のことを無視したという訳ではない。

③隠居山の遊歩道を整備してほしい(泉)

回答：隠居山そのものではないが、図面上だと新博物館の建物の右側にある通路を、隠居山や古墳、元屋敷などの「屋外展示」を見ることができる遊歩道として整備している。

④神明峠に設置してあるモニュメントを移設してほしい(泉)

回答：実際に移設するにはすごく費用が掛かると思うので、ご意見としてうかがう。

⑤図書館の併設など人が集まる工夫をしてほしい(駄知)

回答：構想の段階であるが、近くの史跡（古墳、隠居山、織部の里公園）を整備し、地域一体で見ていただけるものにしたい。移動図書館の停留地としても整備する。

5-2 周辺観光

①織部の里周辺の観光も含めて考えてほしい。博物館が土岐市の宝物ということで職員全体が、あるいは市民全体がそういったことを念頭に置いて市外の人にも宣伝すると良いのではないか(妻木下石)

回答：建物を作るだけが仕事ではないので、いろいろな連携を取りながら事業を進めていきたい。子ども向け教室などを開催しているが、やはり今後とも子どもが喜ぶような、あるいは社会人の方が興味を持てるような取り組みを考えていきたい。

②駅裏に動線があるのに周辺に飲食店などがない(泉)

回答：駅周辺のまちづくり計画を考えている。駅からの動線や、織部の里公園、元屋敷窯跡、乙塚古墳などを含めた周辺一帯の整備の計画も現在進めている。

6 周知活動について

6-1 周知(PR 活動)

①集客、PR をどう考えているか(土岐津)

回答：「知っていただく、来ていただく、再び来ていただく」の3つの壁が存在する。まずは知っていただくところからであり、SNS 等を活用していく。

②インバウンドについてどう考えているか。インバウンドのキーマンとなるような企業やマスコミなどを研究、交渉して知恵をもらわないとなかなか難しいと思う(泉)

回答：インバウンドを進める上で、誰が来るのか、その方々にどう発信するのか、何に配慮するのが重要だと考える。加えて、地域の中で海外とつながっている方と情報を共有しながら、キーマンとなる方を見つけることも必要だと考えている。オーバーツーリズムも考慮しながら、お客さんと土岐市に住む方の双方にとって居心地の良い形を考えていきたい。

6-2 美濃焼の PR について

①美濃焼が浸透していない。うまく PR されていない。美濃焼などの生産も大事だが、人づくりをしながら美濃焼を宣伝する、アピールする方法を工夫してはどうかと思っている(妻木下石)

回答：美濃焼には産業振興と文化振興の側面があり、特に文化振興については公的機関が担う部分が多いと考えている。土岐市のアイデンティティやいろいろな資源を活用し、文化的な振興を進めることは、産業振興と同様に行政の重要な役割であると認識している。

6-3 ご意見

①若者が行きたいと思えるような工夫をしてほしい(インスタ映えなど)(妻木下石)

回答：若者世代向けにもワークショップなどを実施しており、例えば土岐紅陵高校と連携して、博物館についてインスタ映えといった意見もいただいている。博物館の象徴である、重文展示室はまさにインスタ映えするようなスポットではないかなと考えている。

②建てる前提または、意見を聞いて変更する可能性は。パブコメと言うが、周知が足りない(肥田)

回答：令和 2 年くらいから計画をスタートしパブリックコメントを実施してきた。意見を踏まえ基本計画・設計を作成。現在は、令和 6 年に実施した実施設計段階を見直しており、建てるための設計という段階。ワークショップ 8 回、広報で参加者募集を行った。歴史館だよりでも進捗をお伝えしてきたが、周知が足りないと意見を頂き、今回報告会を開催させていただいている。

7 その他

7-1 病院

①新病院について、産婦人科の状況を教えてほしい(土岐津、妻木下石)

回答：土岐市、瑞浪市で産科の病院がなくなってしまったので、新しい病院では何とかお産ができる形にしようと努力しながら（スタッフを）集めている。一定のめどは立っていると聞いている。

②令和 8 年 2 月に開院と聞いているが、予定通り進んでいるか(妻木下石)

回答：来年 2 月の開院は予定通り進んでおり、今年の 11 月頃には建物が完成する。

③医者の数はどうか(妻木下石)

回答：医者の確保については、実際に、土岐総合病院と東濃厚生病院の現状の医師を足すと 60 数名になる。60 数名は移っていただけるという前提の中で、それでは少し足りないので増やすための努力をしている。場合によっては、両市長が医局へ行きお願いに上がるということもあわせてやっているの、引き続き努力はしていきたい。

④新病院への公共交通機関について教えてほしい(土岐津、肥田)

回答：運転手不足から、人員の確保に苦慮しているが、現在公共交通事業者と検討を進めている。市民バスの延伸や、来年から始まる AI デマンド交通などで対応をしていきたい。

⑤新病院の公共交通計画はいつ明らかになるのか(肥田)

回答：自動運転バスの実証実験に取り掛かる。病院への乗り入れは事業者と検討中。できるだけ早くお知らせできるようにしたい。

⑥(土岐市立総合病院の)跡地利用の計画はあるのか(肥田)

回答：今年度、予算をつけて跡地利用を検討している。

⑦瑞浪市が診療所を要望している件について(肥田)

回答：瑞浪市が診療所を要望していると伺っている。実施設計見直し、現時点で全体事業費が確定しているわけではない。

⑧濃南地域の交通の足も考えてほしい(肥田)

回答：曾木地域において、地元で検討協議会を立ち上げ検討していただいている。

7-2 その他

①「土岐市駅周辺まちづくり基本構想」の策定について、情報を市民に報告するのが遅いのではないか(泉)

回答：策定委員会などを設置しており、行政の内部だけで策定しているわけではないことをご承知おきいただきたい。有識者や関係団体、市民代表の方などと構想を練った後に、市議会議員に説明し、最終的にパブリックコメントで市民の方に広く意見を伺っている。この計画についてはまだ固まっておらず、今後パブリックコメントを募集する形になると思う。

②土岐市に若者を残すためにお金を使って。水道インフラの老朽化対応等どう考えているか(肥田)

回答：病院や博物館など地域の魅力を高め、愛着醸成、若者定着を考えている。日本全国の人口が減少していくなか、今まで整備したインフラの維持、更新に費用も必要となっている。しかし、今後も市民の安心安全を守っていくためにも、人口減少を食い止める策や子育てを応援するなど、市にとって必要な施策については、健全な財政状態を維持しながら事業を進めていきたいと考えている。水道事業は計画的に対応している。